

教員や県職員を増やし 働き方改革を

県職員の現職死亡5年で22人

7月17日、猿渡（えんど）久子県議は一般質問で「県職員の痛ましい過労自死があったが、定数増が必要だ。定数削減の影響で年齢構成がアンバランスで若い職員の負担が重い。30代40代の職員採用をすすめるべきだ」と強く求めました。

「過去5年間の県職員の現職死亡は22人（自死は7人）。これまで74人の30代職員を採用してきた。業務効率化を徹底し実態に応じた定数配分に努める」と答弁しました。

県職員5人教員7人が自死

えんど県議は「文科省の調査で、小学校月105時間、中学校127時間の残業時間で過労死ラインを超えている」とグラフを示して質問。いじめや不登校、学力、長時間労働、代替教員の確保など、全ての問題の解決策は、正規教員を増やし30人学級を拡大することに尽きる」と現場の声を紹介して主張しました。

「教員の過去5年の自死は5人、今年度の欠員は小中学校37人、高校3人」「新採用や再任用で正規教員割合を引き上げたい。専門スタッフ30人学級の拡大は国に要請していく」との答弁です。

健康でこそいい仕事ができる

優秀で熱心な県職員や教員が病気になるったり、亡くなったたりすることは、県政と県民にとって損失だ。増員を」と、えんど久子は知事答弁を求めました。

課内・部内で調整すると

広瀬知事は、「自死については大変残念で、ご冥福をお祈りする。しっかりした対策が必要。仕事が偏っている場合は、課内や部内で再配分する」と述べました。今後ともがんばります。



教員の残業時間のパネルを示してして質問するえんど久子。 2019. 7. 17. 大分県議会

30人学級ひろげて教育の充実を

特別支援教育の充実を

えんど久子県議は、予算特別委員会でも質問。「特別支援学級は、生徒8人に先生ひとりでは無理だと思う。状況に応じて加配など充実できるようにすべきではないか。希望しても特別支援学級ができない場合もあると聞くが」と、えんど県議。「特別支援学級は4人以上でクラスを新設。3人以下でも状況により新設する」との答弁です。

死亡事故の教訓どう活かす

「特別支援学校で喉に給食を詰まらせる死亡事故があったが、介護福祉士を配置してはどうか」と質問。「支援学校では事故後、摂食指導の専門家からアドバイスを受けている」との答弁がありました。えんど久子は介護福祉士の配置の検討を重ねて求め

学校の洋式トイレ増設を

教員の研修や会議、県立学校のトイレの洋式化などについても質問。「研修は減らしている」「洋式トイレの設置率は、県立高校44.4%、特別支援学校62.3%」との答弁です。「教員多忙化の中で会議はまだまだ多いのでは。さらに負担軽減を。洋式トイレをさらに増やすべき」とえんど県議は求めました。

教育の充実に力をあわせましょう

8月5日には、全日本教職員組合や大分県教職員の会などみなさんが、長時間労働解

消や少人数学級拡大など41項目を要望。堤栄三・えんど久子両県議も同席しました。

「全国一斉学力テストが子どもたちのストレスになっている」と子育て中の母親。えんど県議は「なぜ大分県独自で30人学級を広げようとしていないのか」と迫りました。担当課は「国に要望する。県独自では財政的な問題が：」とのことです。今後とも力をあわせましょう。



左から、堤栄三県議、えんど久子県議、岩崎貴博大分市議。県労連や新日本婦人の会のみなさんも一緒に現状を訴え、教育の充実を求めて話し合いました。

2019. 8. 5.
大分県庁内にて